

Special Support Education Research Center

SSERC 通信

(第9号 - 2008年6月)

国立大学法人 筑波大学
 特別支援教育研究センター
 センター長：藤原 義博
 〒112 - 0012 東京都文京区大塚 3 - 29 - 1
 TEL & FAX : 03 - 3942 - 6923
<http://www.human.tsukuba.ac.jp/sserc/>
 mail : sserc@human.tsukuba.ac.jp

新センター長あいさつ

「特別支援教育の発展に資する成果の発信を目指して」

藤原 義博



当センターは、我が国最大の障害科学系等の研究組織と視覚・聴覚・知的障害・肢体不自由・自閉症の5つの附属特別支援学校における連携的活動を組織的に強化・恒常化し、特別支援教育に関わる専門性の継承・発展・発信、センター的機能の構築等を目的に、(1)教員研修機能、(2)研究機能、(3)理解啓発・交流機能の3つの事業を柱として取り組んで参りました。その成果としてインターネットの活用を視野に入れた公開講座やセミナーの開催、重複障害のある児童生徒や発達障害のある児童生徒に関わる附属特別支援学校5校との連携研究、国際協力機構(JICA)の青年海外協力隊に関わる文科省の拠点システム構築事業への協力等、様々な研究開発および事業を行って参りました。特に全国の教育委員会から派遣された教員の長期研修プログラムでは、特別支援教育に資する高い専門性と実践的指導力を持ったリーダー的役割を果たせる教員及び特別支援教育コーディネーターの養成に一定の役割を果たしてきたと自負しております。

本年度より筑波大学では、これまでの修士課程教育研究科障害児教育専攻が改組され、特別支援教育指導法開発コースと特別支援教育コーディネーション開発コースを擁した特別支援教育専攻が開設されました。センターでは、この特別支援教育専攻と連携協力して現職教員の研修を行うことによって、これまで以上に充実した研修内容を提供することが可能となりました。今後は、これまでの成果とつながりを生かして、より連携力を高め、質の高い研究開発および研修事業を行うことにより、特別支援教育の発展に資する成果の発信に力を注いでいきたいと考えております。これまで以上にご支援、ご協力をお願いいたしますと共に、今後の当センターの成果にご期待いただきたいと思います。

着任あいさつ

長崎 勤



4月から特別支援教育センターに着任いたしました。今までのセンターの成果を基盤に新たな歩みに貢献できたらと考えています。

特別支援教育のシステムは徐々に整備されてきましたが、その内容についてはまだ様々な課題があるでしょう。生涯発達を実質的にどの様に支援するのか、通常学級の中での支援方法の開発、多様な障害に対応することができる教師の専門性の養成などなどです。

特別支援教育の中で、「ある一人の子ども」を見る機能、聴く機能、移動の機能、認識の機能等、多様な機能の観点での確にアセスメントし、支援してゆくことが求められています。筑波大学、また附属特別支援学校による障害への支援の歴史的な蓄積は、「しっかりとした障害の専門性を持ちつつ、開かれて、たおやかなネットワーキング」による「連携支援」モデルの提示が可能になるでしょう。このような「連携支援」が全国の各地域に出来てゆくことがひとつの方向性なのかもしれません。

私自身の研究はコミュニケーション・言語発達とその支援方法に関するものですが、最近では、協同活動(co-operative activity)や意図の共有などの発達初期の社会性の発達と支援、また幼児期後期から学齢期にかけての「自分の過去経験を分かりやすく他者に伝える活動(ナラティブ)」の発達と支援など

を中心に研究をしています。このような面からもみなさんと共に研究し、全国に研究成果を発信できればと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

主催セミナーの開催 第8回「特別支援教の発進(2)」

平成20年3月26日、筑波大学東京キャンパス大塚地区において、主催セミナーを開催しました。学内外から教員を中心として約130名の参加がありました。

今回のセミナーでは、教育とは、発達とは、といった根源的なアプローチをもって特別支援教育を支える理論と実践について考えること、そして、視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、自閉症の教育を担う筑波大学附属学校間での連携した教育実践・研究の経過と成果等を報告し、連携のあり方や課題等について協議・検討していくことを目的として開催しました。以下のプログラムで行いました。

第 部 筑波大学附属学校間連携研究報告

知的障害と運動障害を併せ有する重複障害児への教育カリキュラムに関する研究

連携校：附属大塚特別支援学校、附属桐が丘特別支援学校

「見えにくさ」のある肢体不自由児童・生徒の指導に有効な教材教具の改善・開発
～視覚障害教育のノウハウを適用して～

連携校：附属桐が丘特別支援学校、附属視覚特別支援学校

視覚の他にも障害を併せ有する幼児の教育支援について

連携校：附属視覚特別支援学校、附属大塚特別支援学校、附属久里浜特別支援学校

第 部 講演 「ロマンティックサイエンスと教育」

筑波大学特別支援教育研究センター長 前川 久男（障害科学系教授）



附属学校間連携研究報告の様子



講演をする前川久男センター長

連携研究・助成研究募集のお知らせ

本センターは、附属学校の先生方を対象とした連携研究・助成研究を行っています。詳細は、ホームページをご参照下さい。

<http://www.human.tsukuba.ac.jp/sserc/page024.html>

連携研究は、一件につき上限で20万円までの研究費を、助成研究は、一件につき上限で10万円までの研究費を助成します（昨年度は、連携研究三件、助成研究一件の研究助成を行いました）。

免許法認定公開講座の受講申し込みが始まっています。

平成20年度免許法認定公開講座が筑波大学東京キャンパス（大塚地区）にて、平成20年7月28日（月）～8月8日（金）の日程で開催されます。特別支援学校一種、二種免許状の取得に必要な講座が用意されています。詳細につきましては、大学のHPをご参照ください。

<http://www.tsukuba.ac.jp/community/extension/license.html>

http://www.tsukuba.ac.jp/community/extension/up_pdf/20080425175556.pdf（要項・申込用紙）

第1回の5部門会議が開かれました

5部門会議は、センタースタッフと附属特別支援学校5校の教員（下表参照）で構成され、センターと附属特別支援学校との連絡・調整および学校間の連携事業を推進するものです。5月23日に、今年度初めての5部門会議が開催されました。各校の取組等についての情報を交換し合う中で、それぞれの専門性を活かした教育実践に発展し、連携へとつながっていくことが期待されます。

平成20年度 センタースタッフ

平成20年度 5部門会議構成員名簿

センター長・教授	藤原 義博
教授	安藤 隆男
教授	長崎 勤
助教	左藤 敦子
教諭（視覚特別支援学校）	星 祐子
教諭（聴覚特別支援学校）	庄司 和史
教諭（大塚特別支援学校）	瀬戸口 裕二
教諭（桐が丘特別支援学校）	松原 豊
教諭（久里浜特別支援学校）	畠山 和也

附属視覚特別支援学校	浅野 慎子 丹治 達義 雷坂 浩之
附属聴覚特別支援学校	大竹 一成 佐藤 幸子 松本 末男
附属大塚特別支援学校	安部 博志 安川 直史 高橋 幸子
附属桐が丘特別支援学校	城戸 宏則 田丸 秋穂
附属久里浜特別支援学校	河戸 初枝 佐藤 みほの

センター貸し出し物品のお知らせ

センターでは、附属各校へ検査器具や支援ツールなどの貸し出しを行っています。検査・支援等のツール一覧や借用書などの詳細については、各校5部門会議メンバーの先生にお問い合わせください。昨年度、DN-CAS認知評価システム5台、ポスタープリンター1台が新しく加わりました。ご活用ください。



ホームページ、ブログの紹介

センターの事業に関する内容や特別支援教育に関する最新の情報を発信しています。

特別支援教育研究センターホームページアドレス：<http://www.human.tsukuba.ac.jp/sserc/>

「特別支援教育の最前線ブログ」アドレス：<http://tsukuba-sserc.cocolog-nifty.com/blog/>

「国際教育協カイニシアチブブログ」アドレス：<http://initiative.justblog.jp/blog/>



【 現職教員研修 修了生の声『苦言・提言』 】

思えば 3 年前、全く何も分からないまま、茗荷谷の筑波大学特別支援教育研究センターの入り口に立って、これからの自分が何をすべきか、悩みました。一歩足を踏み入れたその先は、先取の気風と熱い情熱に覆われたアカデミックな世界でした。わけのわからない私に「特別支援教育って何？」という基本から親切丁寧に教えてくださったセンターの先生方、専門知識を惜しみなく講義してくださった日本を代表する教授陣、知らない・分からない・自信がない、という呪縛から開放してくださったフィールド校の先生方、そして、何もかもカミングアウトできるすばらしい研修生仲間。思い返すと、周りの全ての人に恵まれていたなあ、とあらためて感じます。

私は現在、特別支援学校でコーディネーターの仕事をしていますが、研修生として過ごした半年の中で、特に印象に残っている言葉があります。



教育相談室にて仲間と打合せ

それはフィールド校へ出向いた初日に、支援部長安部先生の言った言葉でした。「**おれたちはチームだ!**」安部先生はいきなりこう言いました。「教わる側と教える側とがチーム？」疑問符から始まった研修でしたが、次第にこの言葉の持つ意味がじわじわと自分の中に浸透していき、今では座右の銘のように、自分にとってなくてはならない言葉になりました。「俺たちはチームだ!」…どれほどこの言葉に励まされ、勇気づけられ、助けられたか。

同じ学校や職場に勤める人が、1 つの目的のために同じ方向を向いたとき、そこにチームが生まれます。協働していく中で、もともと持っていた仲間意識をさらに強く再確認できます。特別支援教育は、チームでの支援が基本です。そのための土壌作り、人・もの・情報をつないで、実効性のある支援ができる環境を作っていくことが、コーディネーターとしての大きな仕事のひとつではないかと思っています。今日も頭の中には、あの言葉「おれたちはチームだ!」が鳴り響いています。

(平成 17 年度 修了生 静岡県立袋井特別支援学校 榊原 敏郎)

カルガモの親子

今年も東京キャンパスにカルガモの親子がやってきました。今年のヒナは 10 羽です。キャンパスの中庭には早速、特設の池が設けられ、ヒナたちも気持ちよさそうに泳ぎの練習をしています。



巻末言

今年は 4 年に一度のオリンピックおよびパラリンピック・イヤーです。「より速く、より高く、より遠く、より強く、より美しく」がオリンピックの精神ですが、パラリンピックのモットーは「Spirit in Motion (躍動前進する精神)」です。「Spirit in Motion」は「自己決定を通じて選手がエンパワメントする環境をつくること」、「スポーツによる自己達成」、「世界を刺激し動かすこと」を目指しています。スポーツというキーワードを外せば、特別支援教育の精神にも共通する面もあるのではないのでしょうか。パラリンピック北京大会は 9 月 6 日から始まります。(松原)